

5 病院事業

(1) 事業数及び経営規模

平成21年度において、県内の市町村等が経営する病院事業の数は、平成21年9月の気仙沼市と本吉町の合併に伴い、前年度に比べ1事業減少した18事業で、その病院数は前年度と同数の29病院となっている。

病院を経営主体別にみると、市営が1病院増加し18病院、町営が1病院減少し7病院、一部事務組合営が4病院となっている。

【市営：7事業18病院】

仙台市、石巻市（3病院）、塩竈市、気仙沼市（2病院）、登米市（4病院）、栗原市（3病院）、大崎市（4病院）

【町営：7事業7病院】

蔵王町、川崎町、丸森町、涌谷町、美里町、女川町、南三陸町

【一部事務組合営：4事業4病院】

白石市外二町組合、黒川地域行政事務組合、加美郡保健医療福祉行政事務組合、大河原町外1市2町保健医療組合

経営規模別にみると、300床以上が前年度に比べ1病院増加し7病院、200床以上300床未満が前年度に比べ1病院減少し1病院、100床以上200床未満は前年度と同数の6病院、50床以上100床未満も前年度と同数の10病院、50床未満も前年度と同数の5病院となっている。このうち、300床以上の病院は、仙台市立病院（525床）、大崎市民病院本院（466床）、気仙沼市立病院（451床）、公立刈田総合病院（308床）、登米市立佐沼病院（300床）、栗原市立栗原中央病院（300床）及びみやぎ県南中核病院（300床）で、いずれも地域の基幹病院として機能している。

なお、病院種別では、すべて一般病院に該当しており、このうち救急告示病院は、前年度と同数の27病院（29病院のうち、気仙沼市立本吉病院及び登米市立よねやま病院以外の病院）となっている。

また、地方公営企業法の規定の全部を適用している事業は4事業（前年度同数：仙台市、登米市、栗原市、大崎市）、一部を適用している事業が13事業（1事業減少）、指定管理者制度（代行制）導入が1事業（前年度同数：黒川地域行政事務組合）となっている。

第1表 経営主体別・経営規模別の状況

（単位：病院、事業、％）

経営規模	市 営		町 営		一 組 営		計		構 成 比	
	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	
300床以上	5	2,042	0	0	2	608	7	2,650	24.1	56.3
200床以上300床未満	1	206	0	0	0	0	1	206	3.4	4.4
100床以上200床未満	3	451	2	247	1	170	6	868	20.7	18.4
50床以上100床未満	5	392	4	298	1	90	10	780	34.5	16.6
50床未満	4	167	1	38	0	0	5	205	17.2	4.4
計（病院）	18	3,258	7	583	4	868	29	4,709	100.0	100.0
経営形態	全部適用	4	0	0	0	4	22.2			
	一部適用	3	7	3	13	72.2				
	指定管理者（代行制）	0	0	1	1	5.6				
	計（事業）	7	7	4	18	100.0				

（注）病院数は、年度末現在の数である。

(2) 業務の状況

病床数は4,709床で、前年度に比べ64床(1.3%)減少している。これは、公立病院改革プランに基づき、塩竈市立病院が38床、栗原市立栗駒病院が22床、公立志津川病院が14床の病床数の見直し(再編による減床)を行ったことによるものである(栗原市立栗原中央病院は10床の増床)。

患者数は、年延入院患者数が1,278千人で、前年度に比べ40千人(3.0%)減少し、年延外来患者数は2,271千人で、前年度に比べ32千人(1.4%)減少している。また、1病院当たりの1日平均入院患者数は121人で、前年度に比べ4人(3.2%)減少し、1病院当たりの1日平均外来患者数は316人で、前年度に比べ3人(0.9%)減少している。

病床利用率は74.4%で、前年度に比べ1.2ポイント低下している。このうち、一般病床利用率は75.2%で、前年度に比べ0.8ポイント低下している。

職員数は4,892人で、前年度に比べ46人(0.9%)減少している。

第2表 病床数及び患者数の推移

年 度 項 目		17	18	19	20	21	対前年度比較	
					a	b	b - a c	(c/a) ×100(%)
年度末病床数	A	5,065	5,120	4,863	4,773	4,709	▲64	▲1.3
年 延 患 者 数 (千人)	入 院	1,454	1,429	1,386	1,318	1,278	▲40	▲3.0
	外 来	2,620	2,547	2,406	2,303	2,271	▲32	▲1.4
一 日 平 均 患 者 数 (人/1病院)	入 院	128	126	126	125	121	▲4	▲3.2
	外 来	339	328	320	319	316	▲3	▲0.9
病 床 利 用 率 (%)		(79.1)	(78.4)	(79.1)	(76.0)	(75.2)	(▲0.8)	—
		77.9	77.0	77.9	75.6	74.4	▲1.2	—
職 員 数	B	5,058	4,984	5,018	4,938	4,892	▲46	▲0.9
一床当たり職員数	B/A	1.00	0.97	1.03	1.03	1.04	0.00	—

(注)病床利用率欄の()内は、一般病床分である。

(3) 経営状況

ア 損益収支の状況

病院事業の経常収益は810億7百万円、経常費用は839億49百万円となっており、この結果、経常収支比率が96.5%となり、前年度に比べ1.7ポイント上昇している。

経常利益が生じた事業は18事業のうち3事業(病院数では29病院のうち8病院)で、前年に比べ1事業減少(2病院増加)しているが、その額は5億73百万円で、前年度に比べ2億17百万円(61.1%)増加している。

経常損失が生じた事業は15事業(21病院)で、前年度と同じ事業数(2病院減少)であり、その額は35億15百万円で、前年度に比べ12億12百万円(25.6%)減少している。

経常収益に特別利益を加えた総収益は817億39百万円、経常費用に特別損失を加えた総費用は842億17百万円となっており、この結果、総収支比率は97.1%で、前年度に比べ2.0ポイント上昇している。

経常損益に特別損益を加減した純損益をみると、24億78百万円の純損失が生じており、前年度に比べ16億60百万円（40.1%）減少している。

累積欠損金を有する事業は18事業（27病院）で、前年度と同じ事業数（同病院数）であるが、その額は663億87百万円で、前年度に比べ24億79百万円（3.9%）増加している。

不良債務を有する事業は3事業で、前年度と同じ事業数であるが、その額は16億36百万円で、前年度に比べ3億36百万円（17.1%）減少している。

第3表 病院事業の損益収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目	年 度	17	18	19	20 a	21 b	対前年度比較	
							b - a c	(c/a) ×100
総 収 益 A		81,498	81,697	80,297	79,658	81,739	2,081	2.6
経 常 収 益 B		80,369	79,092	79,687	78,977	81,007	2,030	2.6
医 業 収 益 C		72,606	71,396	71,881	70,064	71,704	1,639	2.3
うち料金収入		67,055	65,614	66,097	63,809	64,771	962	1.5
うち受託工事収益 D		0	0	0	0	0	0	—
特 別 利 益		1,129	2,606	610	682	732	50	7.4
総 費 用 E		88,506	87,544	86,056	83,796	84,217	421	0.5
経 常 費 用 F		87,562	87,042	85,596	83,348	83,949	601	0.7
医 業 費 用		83,028	82,683	81,452	79,429	80,204	776	1.0
うち職員給与費		38,112	38,350	37,768	37,378	37,514	136	0.4
支 払 利 息		2,364	2,302	2,151	1,971	1,807	▲163	▲8.3
特 別 損 失		944	502	460	448	268	▲180	▲40.2
経 常 損 益		▲7,192	▲7,951	▲5,910	▲4,371	▲2,942	1,429	32.7
経 常 利 益		261	405	611	355	573	217	61.1
経 常 損 失 G		7,453	8,356	6,520	4,727	3,515	▲1,212	▲25.6
純 損 益		▲7,008	▲5,847	▲5,759	▲4,138	▲2,478	1,660	40.1
純 利 益		682	1,275	504	504	821	317	63.0
純 損 失		7,689	7,122	6,263	4,641	3,299	▲1,342	▲28.9
累 積 欠 損 金 H		50,137	55,959	59,770	63,908	66,387	2,479	3.9
不 良 債 務 I		5,277	4,209	4,918	1,972	1,636	▲336	▲17.1
経 常 収 支 比 率 B/F		91.8	90.9	93.1	94.8	96.5	1.7	—
総 収 支 比 率 A/E		92.1	93.3	93.3	95.1	97.1	2.0	—
医業収益 に対する 割 合	経 常 損 失 比 率 G/(C-D)	10.3	11.7	9.1	6.7	4.9	▲1.8	—
	累 積 欠 損 金 比 率 H/(C-D)	69.1	78.4	83.2	91.2	92.6	1.4	—
	不 良 債 務 比 率 I/(C-D)	7.3	5.9	6.8	2.8	2.3	▲0.5	—
総 事 業 数 (営 業 中) J		20	20	19	19	18	▲1	▲5.3
経 常 損 失 を 生 じ た 事 業 数 K		17	17	17	15	15	0	0.0
累 積 欠 損 金 を 有 す る 事 業 数 L		19	19	18	18	18	0	0.0
不 良 債 務 を 有 す る 事 業 数 M		5	4	3	3	3	0	0.0
総事業数 (営業中) に対する 割 合	経 常 損 失 を 生 じ た 事 業 数 K/J	85.0	85.0	89.5	78.9	83.3	4.4	—
	累 積 欠 損 金 を 有 す る 事 業 数 L/J	95.0	95.0	94.7	94.7	100.0	5.3	—
	不 良 債 務 を 有 す る 事 業 数 M/J	25.0	20.0	15.8	15.8	16.7	0.9	—

(注) 不良債務＝流動負債－(流動資産－翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

イ 資本収支の状況

病院事業の資本的支出は86億36百万円で、前年度に比べ2億90百万円（3.5%）増加している。このうち、建設改良費は35億16百万円で、前年度に比べ3億73百万円（11.9%）増加しており、企業債償還金は49億39百万円で、前年度に比べ1億47百万円（2.9%）減少している。

資本的支出の財源は、外部資金が他会計出資金や企業債等の68億83百万円であり、内部資金（資本的収入が資本的支出に不足する分の補てん財源）が損益勘定留保資金等の17億53百万円である。

なお、資本的支出に占める建設改良費の割合は40.7%で、前年度に比べ3.0ポイント上昇しており、建設改良のための企業債償還金の割合は52.4%で、前年度に比べ1.5ポイント低下している。

第4表 病院事業の資本収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目	年 度	17	18	19	20	21	対前年度比較			
							a	b	b - a	(c/a)
									c	×100
資本的支出	建設改良費	3,310	2,687	2,059	3,143	3,516	373	11.9		
	企業債償還金	5,847	6,031	7,029	5,086	4,939	▲147	▲2.9		
	うち建設改良費のためのもの	5,847	6,031	5,181	4,496	4,522	26	0.6		
	その他	100	615	71	117	181	64	54.7		
	計	9,257	9,333	9,159	8,346	8,636	290	3.5		
同 上 財 源	内部資金	2,015	1,811	1,333	1,475	1,753	278	18.8		
	外部資金	7,242	7,522	7,826	6,871	6,883	12	0.2		
	企業債	2,311	1,941	3,212	5,854	1,846	▲4,008	▲68.5		
	うち建設改良費のためのもの	2,311	1,941	1,364	2,285	1,846	▲439	▲19.2		
	他会計出資金	4,078	4,581	4,360	3,506	3,931	425	12.1		
	他会計負担金	240	267	90	200	735	535	267.8		
	他会計借入金	0	350	0	0	0	0	—		
	他会計補助金	50	63	57	120	152	32	27.1		
	国・県補助金	561	315	112	118	126	8	6.8		
	繰越事業財源(▲)	0	0	0	0	16	16	皆増		
計	9,257	9,333	9,159	8,346	8,636	290	3.5			
財源不足額	0	0	0	0	0	0	—			
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額	0	0	0	0	0	0	—			
実質財源不足額	0	0	0	0	0	0	—			

(注) 1 内部資金=補てん財源合計額-前年度からの繰越工事資金+固定資産売却代金

2 外部資金=資本的支出額-(内部資金+財源不足額)

ウ 料金収入の状況

料金収入（入院・外来収益）は647億71百万円で、前年度に比べ9億62百万円（1.5%）増加している。

患者1人1日当たりの診療収入は、入院収益が33,635円で、前年度に比べ1,062円（3.3%）増加しており、外来収益が9,588円で520円（5.7%）増加している。

職員1人1日当たりの診療収入は、医師1人当たりでは290,357円で1,140円（0.4%）減少しており、看護部門1人当たりでは52,231円で237円（0.5%）増加している。

第5表 料金収入の状況の推移

（単位：円、%）

年 度		17	18	19	20	21	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
項 目					a	b	c	×100
料 金 収 入（百万円）		67,055	65,614	66,097	63,809	64,771	962	1.5
内 訳	入院収益（百万円）	44,408	43,833	44,356	42,933	42,998	65	0.2
	外来収益（百万円）	22,647	21,781	21,740	20,876	21,773	897	4.3
患者1人1日 当たり診療 収 入	入 院	30,552	30,669	31,998	32,573	33,635	1,062	3.3
	外 来	8,645	8,552	9,034	9,068	9,588	520	5.7
職員1人1日 当たり診療収入	医 師	321,466	290,652	298,379	291,497	290,357	▲1,140	▲0.4
	看 護 部 門	56,229	54,437	53,568	51,994	52,231	237	0.5

エ 他会計繰入金の状況

他会計からの繰入金（借入金を含む。）は、収益的収入（特別利益を含む。）に計上される繰入金が127億5百万円、資本的収入に計上される繰入金が48億18百万円、合わせて175億23百万円で、前年度に比べ17億52百万円（11.1%）増加している。

収益的収入に計上される他会計からの繰入金の総収益に対する割合は15.5%で、前年度に比べ0.5ポイント上昇しており、資本的収入に計上される他会計からの繰入金の資本的収入合計に対する割合は70.0%で、前年度に比べ31.1ポイント上昇している。

病床1床当たりの他会計からの繰入額は372万1千円で、前年度に比べ41万6千円（12.6%）増加している。

第6表 他会計繰入金の状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目		年 度	17	18	19	20 a	21 b	対前年度比較	
								b - a c	(c/a) ×100
他会計繰入金	収益的収入 A		10,356	12,003	10,273	11,946	12,705	759	6.4
	うち	負担金	7,713	8,286	8,413	9,386	9,932	546	5.8
		補助金	1,731	1,334	1,399	2,047	2,151	104	5.1
		特別利益	912	2,383	462	513	622	109	21.2
	資本的収入 B		4,368	5,262	4,507	3,826	4,818	992	25.9
	うち	出資金	4,078	4,581	4,360	3,506	3,931	425	12.1
		負担金	240	267	90	200	735	535	267.8
		借入金	0	350	0	0	0	0	—
		補助金	50	63	57	120	152	32	27.1
		計 (A+B) C		14,724	17,265	14,780	15,772	17,523	1,752
総	収益 D		81,498	81,697	80,297	79,658	81,739	2,081	2.6
資	本的収入 E		7,243	8,234	7,838	9,845	6,883	▲2,962	▲30.1
繰入率	総収益に対する繰入率 A/D		12.7	14.7	12.8	15.0	15.5	0.5	—
	資本的収入に対する繰入率 B/E		60.3	63.9	57.5	38.9	70.0	31.1	—
一床当たり繰入金	収益的収入(千円)		2,045	2,344	2,112	2,503	2,698	195	7.8
	資本的収入(千円)		862	1,028	927	802	1,023	221	27.6
	計(千円)		2,907	3,372	3,039	3,305	3,721	416	12.6

(注)一床当たり繰入金 = $\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{年度末病床数}}$

オ 職員給与費の状況

職員1人当たり平均給与月額、医師が150万8,101円、看護師が45万509円、准看護師が50万3,378円、事務職員が50万6,612円、その他の職員が45万415円、全職員平均では56万2,322円で、前年度に比べ4,350円(0.8%)減少している。

第7表 職員別給与(平均給与月額)の状況の推移

(単位:円、%)

項目	年 度					対前年度比較	
	17	18	19	20 a	21 b	b - a c	(c/a) ×100
医 師	1,476,890	1,480,980	1,487,236	1,502,660	1,508,101	5,441	0.4
看 護 師	461,153	460,463	456,534	457,286	450,509	▲6,777	▲1.5
准 看 護 師	519,276	511,199	516,009	517,511	503,378	▲14,133	▲2.7
事 務 職 員	504,509	509,698	518,375	514,617	506,612	▲8,005	▲1.6
そ の 他 職 員	484,721	467,159	467,868	464,615	450,415	▲14,200	▲3.1
全 職 員	566,422	566,529	566,010	566,672	562,322	▲4,350	▲0.8

(注)1 管理者及び臨時職員を除く。

2 平均給与月額=(基本給+手当)/年間延職員数

カ 業務量の状況

職員1人当たりの患者数は723人で、前年度に比べ9人(1.2%)減少しており、職員1人当たりの料金収入は1,320万円で、前年度に比べ296千円(2.3%)増加している。

病床100床当たりの職員数は、医師が13.7人、看護部門職員が73.1人、全職員では119.1人で、前年度に比べ3.5人(3.0%)増加している。

第8表 職員業務量の状況の推移

項目	年 度					対前年度比較		
	17	18	19	20 a	21 b	b - a c	(c/a) ×100(%)	
職員1人当たり患者数(人)	805	798	756	732	723	▲9	▲1.2	
職員1人当たり料金収入(千円)	13,257	13,165	13,172	12,904	13,200	296	2.3	
病床100 床当たり	医 師(人)	11.9	12.9	13.0	13.2	13.7	0.5	3.8
	看 護 部 門(人)	68.7	68.2	71.3	71.8	73.1	1.3	1.8
職 員 数	全 職 員(人)	109.9	109.5	113.4	115.6	119.1	3.5	3.0

キ 材料費の状況

薬品等の医療材料費は154億53百万円で、前年度に比べ3億78百万円（2.5%）増加している。これを料金収入に対する割合で見ると23.9%で、前年度に比べ0.2ポイント上昇している。

医療材料費のうち、薬品費は87億24百万円で、前年度に比べ2億33百万円（2.7%）増加しており、患者1人当たりの薬品費は2,458円で、前年度に比べ113円（4.8%）増加している。

薬品使用効率は、投薬分が123.8%、注射分が85.4%、平均で99.7%となっており、前年度に比べ10.9ポイント低下している。

第9表 料金収入に対する材料費の状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目		年 度					対前年度比較		
		17	18	19	20 _a	21 _b	$\frac{b-a}{c}$	$\frac{(c/a)}{\times 100}$	
料 金 収 入		67,055	65,614	66,097	63,809	64,771	962	1.5	
医 療 材 料 費		17,364	16,627	16,521	15,075	15,453	378	2.5	
う ち	薬 品 費	10,125	9,592	9,390	8,491	8,724	233	2.7	
	そ の 他 材 料 費	7,239	7,035	7,130	6,584	6,729	145	2.2	
料金収入 に対する 割 合	医 療 材 料 費	25.9	25.3	25.0	23.6	23.9	0.2	—	
	う ち	薬 品 費	15.1	14.6	14.2	13.3	13.5	0.2	—
		そ の 他 材 料 費	10.8	10.7	10.8	10.3	10.4	0.1	—
患者1人当たり薬品費(円)		2,486	2,412	2,476	2,345	2,458	113	4.8	
薬品使用 効 率	投 薬	122.3	121.3	124.5	126.2	123.8	▲2.4	—	
	注 射	108.7	102.0	102.3	100.8	85.4	▲15.4	—	
	平 均	114.7	110.3	111.7	110.6	99.7	▲10.9	—	